

特論 2

北海道大学学芸員リカレント教育プログラム
企画展を装飾する ギャラリートークと舞台芸術



「アートが紡ぐ古代の物語」

フィギュアアートシアター

OKHOTSK

—終わりの楽園—

学芸員リカレント教育プログラムの講義を
北海道大学関係者に特別公開いたします。

5世紀頃、サハリン（樺太）から北海道、オホーツク海
沿岸に渡ってきて独自の文化を発展させたオホーツク文化人。
「OKHOTSK ～終わりの楽園～」はその遺跡をモチーフとして
人形劇師・沢則行氏が創作した物語です。
「人形浄瑠璃三人遣い」、「砂絵」、「バロック音楽生演奏」、
「演劇」などが融合された『フィギュアアートシアター』と
呼ばれる新しい総合芸術をお楽しみください。
アフタートークでは、遺跡に託された古代からのメッセージを
考古学者はどのように読み解くのかをご紹介します、考古学者と
人形劇師の出会いから生まれる北海道の新たな文化に
ついて語り合います。

上演 + アフタートーク

2018
8.26 [日]
14:00 ~ 16:00
(13:30 開場)

【会場】

札幌市こどもの劇場やまびこ座
札幌市東区北 27 条東 15 丁目
(地下鉄東豊線元町駅 2 番出口より徒歩 5 分)

フィギュアアートシアター 「OKHOTSK～終わりの楽園～」

【作・演出・美術・出演】 沢 則行

【出演】 さっぼろ人形浄瑠璃芝居あしり座
会田 優子 (人形劇団ぐらんぱ)
後藤 克樹 (トランク機械シアター)
宮川 聖子 (人形劇団プルスタ)
山崎 明慧 (あしり座) 他

【演奏】 バロック・コレギウム・サッポロ

【砂絵・影絵制作・操作】 黒川 絵里奈

【美術制作・影絵操作】 中川 有子

アフタートーク 「時空を越えた対話：人形劇師と考古学者」

沢 則行
人形劇師・演出家(国際人形劇連盟UNIMA会員)

加藤 博文
北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 教授

岡田 真弓
北海道大学 創成研究機構 特任助教

《お申込方法》

北海道大学関係者およびその家族を
ご招待いたします。
Google フォームよりお申込ください。
※定員 150 名になり次第締め切らせて
いただきます。

<URL>

https://docs.google.com/forms/d/1ilqbRbszURGHqTj5jMrXL0BopqN47Y00zMYU3pBg_g/viewform?edit_requested=true

<QR コード>



お問い合わせ
北海道大学文学研究科内「学芸リカプロ事務局」
TEL/FAX 011-706-4017
E-mail recurrent_hokudai@let.hokudai.ac.jp

■主催 北海道大学大学院文学研究科 学芸員リカレント教育プログラム (プログラム代表: 佐々木 亨)

■共催 北海道大学アイヌ・先住民研究センター
札幌市こどもの劇場やまびこ座指定管理者: (公財) さっぼろ青少年女性活動協会

■連携 北海道大学 TERRACE - 科学とアートが出会う場所 -

■助成 文化庁 平成 30 年度大学における文化芸術推進事業「ミュージアム学芸員の企画展制作<立案・運営・評価>スキル養成深化プログラム」



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY



== 一般公開の部 ==

14:00-14:05 ご挨拶 関 靖直 北海道大学 理事・事務局長

14:05-15:00 「OKHOTSK ～終わりの楽園～」 上演

15:00-15:10 休憩

15:10-16:00 アフタートーク 「時空を越えた対話：人形劇師と考古学者」

沢 則行 (人形劇師・演出家)、加藤 博文 (北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 教授)、岡田 真弓 (北海道大学 創成研究機構 特任助教)

== プログラム生対象 ==

16:00-16:30 やまびこ座 30 周年記念展示見学

16:30-17:00 アートマネジメント講義「人が文化を育て、文化が人を育てる」

矢吹 英孝 (札幌市こどもの劇場やまびこ座 館長、さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 代表)

出演者紹介



▶ 沢 則行 (さわ のりゆき) / 人形劇師・演出家、国際人形劇連盟 UNIMA 会員

小樽市出身。北海道教育大学特別教科(美術・工芸)教員養成課程卒。1991年に渡仏、92年に文化庁在外研修生で、チェコへ。以後、ブラハを拠点に世界20ヶ国以上で公演を行う。チェコ国立芸術アカデミー演劇・人形劇学部、米国スタンフォード大学演劇学科、シカゴ大学など、多くの教育の現場で講座、ワークショップを指導。1999年、ヨーロッパ文化賞「フランツ・カフカ・メダル」授与。2009年、セルビア・スポティツァ国際児童演劇祭で演技賞、音楽賞をダブル受賞。2011年には、ポーランド・カトヴィツェ市よりEU文化都市賞が送られるなど、国際的受賞多数。日本国内では2004年～2010年、東京青山円形劇場にて毎年一人芝居「KOUSKY=コウスキ」上演。2006年、NHK「ようこそ先輩・課外授業」出演。2009年、「みんなのうた」映像制作。2015年には、第66回さっぽろ雪まつり大雪像×人形オペラ「雪の国アリス」芸術監督をつとめる。



▶ 加藤 博文 (かとう ひろふみ) / 北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 教授

夕張市出身。1990年に旧ソ連に留学。現在、北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授、ウプサラ大学(スウェーデン)考古学・古代史講座客員教授、オックスフォード大学アジア考古学・芸術・文化研究センター客員研究員、日本シベリア学会会長を務める。北海道大学、オックスフォード大学、ウプサラ大学などで先住民考古学の講義を担当する。主な著作：『シベリアを旅した人類』(東洋書店)、『旅する人類の考古学』『北方を旅する』(北海道大学出版会)、『狩猟対象から儀礼対象へ：シベリアに食と儀礼の起源を探る』『食と儀礼をめぐる地球の旅』(東北大学出版会)など。2011年から礼文島で毎年、国内外から80名近くの学生や院生が参加する国際フィールドスクールを主催している。



▶ 岡田 真弓 (おかだ まゆみ) / 北海道大学 創成研究機構 特任助教

東京都出身。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了(博士)。専門は、パブリック考古学、文化遺産研究。北海道大学アイヌ・先住民研究センター博士研究員を経て、2015年より現職。現代の人々が文化遺産、とくに考古学に関するモノ・コトからどのように歴史をイメージし、それを理解し、そして活用しているのかを様々な角度から考察することに興味を持ち、北海道およびイスラエル・パレスチナ等をフィールドに研究を行っている。2011年より、礼文町浜中2遺跡の発掘調査に参加。おもに地域社会との発掘・研究成果の共有をめざし、礼文町郷土資料館における浜中2遺跡の発掘調査速報展や、考古学や遺跡に親しめるような町民向けのワークショップ等の企画・実施に従事している。



▶ 矢吹 英孝 (やぶき ひでたか) / 札幌市こどもの劇場やまびこ座 館長、さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 代表、国際人形劇連盟日本ウニマ会員

福島県出身。北海道教育大学函館分校入学後、児童文化研究会に入会、人形劇を始める。1991年、札幌市こども人形劇場こぐま座指導員となり、札幌に活動拠点を移す。1994年から八王子車人形西川古柳座五代目家元西川古柳氏に師事し、人形浄瑠璃「三人遣い」を学ぶ。1995年、あしり座設立に携わる。やまびこ座、こぐま座を中心に道内各地域にて、こども人形劇団やアマチュア人形劇団への人形劇、人形浄瑠璃の指導・育成を行い、数多くの作品の演出、美術、プロデュースを手掛ける。同時に自身の劇団においても全国各地にて公演やワークショップを実施し、東日本大震災以降は、福島県を中心に被災地支援公演を精力的に行う。2009年、札幌劇場祭にて美術賞。2014年、あしり座が『北の聲アート特別賞(ハルニレ賞)』受賞など。

▶ さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 (主遣い：矢吹 英孝/左遣い：安田 晃子/足遣い：池内 潤樹)

北海道から新たな気持ちで人形浄瑠璃を発信していきたいという想いを込め、

アイヌ語から『あしり(=新しい)』座と命名。道民の手で人形を遣い、演じ続けていくことで、北海道発の新しい文化の創造を目指す。

北海道では唯一、人形浄瑠璃の公演を行う一座として1995年に誕生。

年1回の定期公演を中心に、北海道各地域での依頼公演、全国各地のフェスティバル参加、各地でのワークショップ等精力的な活動を行っている。

2014年11月「第3回北の聲アート賞(特別賞)」、同年12月 札幌劇場祭2014「審査員奨励賞」受賞。